

未来への遺産

三重県 世界遺産 七里御浜



松本峠から見た七里御浜

熊野灘に面した熊野市の鬼ヶ城から三重県最南端の町・紀宝町の熊野川河口まで、ゆるやかな弧を描き二十数km(約七里)続く七里御浜は、日本で最も長い砂礫海岸です。その風景の美しさから「日本の渚百選」、「日本の白砂青松百選」などに選ばれており、平成十六年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界遺産に登録されました。

熊野古道伊勢路の峠道のひとつ、松本峠からは七里御浜の長い海岸線が一望でき、眼下に開けた美しい海岸線は昔も今も変わらず人々を魅了します。

秋、海からも見える花の窟神社は、巨岩をこ神体とし、毎年二月二日と十月二日の例大祭では岩からご神木に大しめ縄を渡すお綱かけ神事が行われます。日本一長いと言われる約百七十mのしめ縄を、ご神体の頂から七里御浜に引き出して氏子と参拝者が協力して、境内に張りわたす神事です。



熊野大花火大会

了します。

七里御浜は、四季折々にさまざまな顔を見せてくれます。春、七里御浜に1kmにわたって約二百匹の鯉のぼりが泳ぎます。夏、毎年八月十七日に熊野大花火大会が開催されます。花火の舞台は世界遺産鬼ヶ城や七里御浜です。全国各地から熊野に集まった約十五万人の人々が七里御浜から熊野灘の海上に打ち上がる約一万発の花火を見物します。



サンマのすだれ干し

冬から春先にかけては、サンマのすだれ干しが見られます。熊野灘でとれたサンマを、まるごと竿に吊るして天日干しするもので、冬の風物詩となっています。

また、アカウミガメの産卵地としても知られています。

熊野詣をする人々にとっては「浜街道」あるいは「巡礼道」と呼ばれ、信仰の道としての役割を果たしていました。現在では、熊野古道のハイキングコースとして浜を散策する人も多くなりました。

ゆったりとした時が流れる七里御浜のさまざまな風景を是非ご体感ください。

お問い合わせ

TEL 三重県政策部東紀州対策局東紀州対策室
〇五九―二二四―二一九二